



全国公立学校教頭会通信 第4号

きずな

令和6年度 全国公立学校教頭会研究大会
高知大会 第2分科会

発行 令和6年9月1日

全国公立学校教頭会 広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jp

HP： <https://kyotokai.jp>

令和6年度、『第66回全国公立学校教頭会研究大会高知大会』が、7月31日～8月1日に開催されました。全公教広報部員も各分科会に参加しましたので、取材した概要をお伝えいたします。

第2分科会 「子供の発達に関する課題」①

■提言者 北海道中標津町立中標津小学校 教頭 阿部 俊介 先生

■提言主題

確かな学力の定着と心豊かな人間性の育成に係る教頭の関わり

— 授業改善や学習習慣の改善、学校間や地域・家庭との連携協働を通して —

■概要

①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、②学校間の連携という視点から教頭としての役割に焦点をあてた研究が紹介された。授業改善においては、各種調査結果等を活用した取組や授業力向上研修の実施、日常の授業と家庭学習をつなげる取り組みを3本の柱としていた。また、連携においては、小中の連携といった学校間の連携だけでなく、家庭や地域、専門家との連携の様子が示されていた。



■グループ協議

協議の柱を、「子供たちの学力向上に関わる副校長・教頭の役割」として話し合いが行われた。

その中で、教員の授業改善のかじ取りを行う、若手教員を中心とした人材育成、ICT機器の活用の推進、外部とのつなぎ役

になる、ユニバーサルデザインの構築といった意見が出された。

■指導・助言

○高知県教育委員会人権教育・児童生徒課長 山中恵美 様

- ・教頭先生は学校と外部の方たちとのつなぎ役ということを常に意識してほしい。
- ・学習指導と生徒指導の一体化を図ってほしい。その中でうまく成果が上がらない時は原因や方法をしっかり話し合いをして見極める必要がある。

○高松市立直島中学校長 佐光 隆 先生

- ・検証改善を行うとともに、教職員に対する研修を実施したことにより、授業改善が進み、学力向上につながった。
- ・地域や家庭を巻き込んだ活動を充実させたことにより、児童生徒の学習意欲が高まり、心豊かな人間性の醸成に資することができた。今後は、検証改善サイクルの質の向上と取り組みの全管内への波及を進めてほしい。

第2分科会 「子供の発達に関する課題」②

■提言者 愛媛県宇和島市立城東中学校 教頭 山西 秀樹 先生

■提言主題

自己肯定感を育てる教育活動の推進と教頭の関わり — 生徒会・児童会連携を通して —

■概要

①小学校の児童会と中学校の生徒会の交流や協働、②地域貢献という視点から教頭としての役割に焦点をあてた研究が紹介された。児童会と生徒会の交流においては、小学校の文化祭への中学生の参加や小中合同の挨拶運動といった小中連携活動の様子が示された。また、地域貢献においては、地域行事への協力や島の自然保護活動など、学校と地域が連携して行っている活動がいくつも紹介された。

■グループ協議

協議の柱を、「子供たちの自己肯定感を高めるための副校長・教頭の役割」として話し合いが行われた。



その中で、長期間に渡り形骸化している活動の見直しを行う、子供たち発信の取り組みを外部につないでいく、小中交流や異学年交流の促進といった意見が出された。

■指導・助言

○高知県教育委員会人権教育・児童生徒課長 山中恵美 様



- ・児童生徒の自己有用感が高めていくことは効果的であるが、目の当たりにくい子に標準を当てていくことが必要。
- ・認めると褒めるの違いを意識して、一人一人をよく見て褒めていくとよい。
- ・学級活動の時間での話し合いをうまく活用していくことも大切である。

○高松市立直島中学校長 佐光 隆 先生

- ・教頭のコーディネートにより、子供たちの母校や地域への愛着が高まった。今後はそれを持続可能なものにするための仕組みを考えていくことが必要である。
- ・「場・金・人」の3つを確保することは教頭職の重要な仕事である。